

各支部・分会から年頭挨拶

地域闘争の前進を糧に組織強化・拡大に向け
二〇一七年、港合同一丸となつてがんばろう！

田中機械支部

POST TRUTH
(ポスト トゥルース)
から見えてくるもの

いささか旧聞に属するが、昨年十一月、イギリスのオックスフォード英語辞典は二〇一六年を象徴する「今年の単語」として、POST TRUTH (ポスト トゥルース)

を選んだ、と発表した。

「ポスト事実」といつても何のことかわかりにくいのだが「世論形成において、客観的事実が、感情や個人的信念に訴えるものより影響力を持たない状況」と定義されている。

敷衍すると「扇動的な言い回し」「誇張」「デ

マゴギー」といってもよいかと思う。

英国国民投票の際には離脱派が「EUへの拠出金、週四八〇億円(当時)の無駄を国民医療サービス(NHS)に！」と国民をあり、勝利するや否や「あの数字は間違いだった。」と認め撤回した例が有名だ。

米国ドナルドランプにいたっては移民排斥、

女性蔑視など(あえて具体的に記さないが)その悪口雑言は枚挙にいとまがない。

我々の身近にもポストトゥルースは存在する。

「美しい国」「世界の真ん中で輝く日本」などの情念的な言葉が大好きで、福島原発の汚染水を「アンダーコントロールされている」と欺罔し、オリンピック招致をもぎ取った二世政治家。

一方通行のツイッターを乱射し、市民の劣情をあり、分断しながら団結権を破壊する「前」大阪市長や太鼓持ちの知事。

これらの人々はなぜか共通して「強い●●(注

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！

国や地域を指す)」「●●をとりもどす」と叫ぶのである。

問題は彼(女)等の言動がなお一定の「支持」を得て、存在し続けていることである。

性悪説に関連付けるならば、それは人々の心の片隅にある鬱積した不満をえぐりだす類いまれなる「才能」といえるのかもしれない。もちろんそこには誰しもが不特定多数への発信者となるソーシャルメディアの影響もある。

一方で受け止める側には自分たちを取り巻く閉塞感を打破してくれる「希望の星」としての

「英雄待望論」がありはしまいか。

大幅減税と公共投資というブレーキとアクセルを一緒に踏むような何ら具体性のない政策をぶち上げるトランプに対し、大統領選挙直後から期待値先行で上がりつづける株価にはリーマンショック前の「夢よもう一度」の思いが見え隠れする。

しかし人間は夢を追うことはできても一生見続けることはできない。どこかで目を覚まし現実を見なければならぬ時が来る。

誤った為政者や好不況いずれの際にも「両張り」しながら利益をむさぼる

強欲資本主義の権化のようなマネートレーダー等の言動に振り回されてはならない。

今こそ「真実を見る目」を養い、異なる他人の意見をも「傾聴する耳」を

まともな社会的介護制度の実現めざして

南 労 会 支 部

南労会争議中、田中機械支部の全面的な支援のもと、被解雇者の「職と食」を確保し長期闘争体制を確立するため、二〇

〇一年十二月に開始した「NPOみなと合同ケアセンター」の事業は、今年で十六年目を迎える。

もちろん、互いの「幸福追求権」を探っていくため発信し、地に足の着いた活動を持続してゆくことが我々に求められているのではないだろうか。

田中機械支部の敷地内に新築してもらった建物でデイサービスを始めてからも十二年間が経過した。故大和田委員長の闘争方針の確かさと「活動拠点」の存在のありがたさを改めて強く感じている。

介護保険事業に携わっている、人のあり方とか「今の社会をどう認識(批判)し、どのよう

な社会をめざしていくべきなのか」という根本的な問題をいま一度考えざるを得ない。「個々人は自分の身体をきちんと経営管理しなければならず、ひとりのひとりが管理責任を問われるとともに、自助努力を最大限発揮して安易に他人に助けを請うてはならない。」という人間観は、人が労働力商品となるに伴って歴史的につくられてきた極めて特殊な見方と捉えるべきと思う（大川正彦「マルクス いま、コミュニズムを生きるとは？」）。

そして、「他人（ひと）に助けを請うこと、他人をたのむということはそれ自体、ひとつの非常に大切な力と考えていいのではないか」（清水真砂子「もうひとつの幸福―挫折と成長―」との指摘に共感を覚える。安倍は、「一億総活躍社会」という気味の悪いスローガンを提唱しているが、そもそも、認知症の人など、安倍が言う意味で「活躍」できない人はどう扱われるのだろうか。「一億総活躍社会」というスローガンには、「自助努力」が強調されるのと同様、人々を無理やり、したくもない「活躍」にかりたて、もともと「活躍」できない人々を人間として見下すものが感じられる。

人を個々人の身体に分断して労働力商品としてみる人間観を克服し、働けない障がい者も認知症になった高齢者も人として尊重される共生社会を実現することが重要な課題であろう。そのためには、社会的介護制度の実現は必要不可欠である。

さて、私たちは、全日建、全港湾、全労協などの仲間とともに「介護事業分野における新たな組織化」という課題に取り組み、「安心できる介護を！懇談会」という組織を立ち上げた。昨年は、さらにこれを発展させ、大阪社会保障推進協議会や大阪市大の水野博達さ

南大阪平和人権連帯会議 団結旗開き

◇日時：2017年1月17日(火)18：45より
◇場所：田中機械ホール

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！

んらとともに「介護・福祉総がかり行動(準)」を発足させ、行政交渉に取り組むとともに、十一月には二五〇名が結集する大集会を開催することができた。

本年も、介護保険制度の改悪を許さず、利用者・労働者・事業者がつながりながら、まともな社会的介護制度の実現を目指して奮闘したい。

イツツツヤ分会

松井知事は大阪の恥だ

昨年も様々な政治的出来事がありました。最もあ然としたのは、沖縄に派遣された大阪府警の

「南労会設立の趣旨を踏まえた松浦診療所の存続・再建」と「NPOみなど合同ケアセンターの運営・経営面での強化・発展」という南労会支部に課せられた二つの重要な課題についても引き続き取り組んでいかなければならない。

本年もよろしくお願います。

機動隊員の許すことのできない「土人」発言に対し松井知事が「どっちもどっち。売り言葉に買い言葉だ」と言い放ったことです。沖縄の現状を思

えばこんな無知、無自覚、無責任な言葉はありません。

仮に他府県の知事に同じ質問をすれば、たとえその人が「工事容認派」であったとしても、本土と沖縄の歴史的関係(島津藩による琉球侵攻から琉球処分そして沖縄戦と沖縄売渡しと続く米軍支配など)を年頭におけば、すくなくともそれなりに言葉を選んで慎重にコメントするでしょう。それをあたかも街中で酔っ払い同士がけんかでもしているようなとらえ方で「どっちもどっち」とは何たる言いくさでしょうか。本当に腹立たしい限りです。無論松井は現在の沖縄の苦悩が私たちやマトの責任であることなど微塵も理解していないでしょう。

そして大阪の街をよりバクチの街にしてしまうIR誘致を自ら科学的に分析して判断することなどなく「大阪経済の活性化には是非とも必要」と御用学者の言葉をそのまま引用して推進しています。

また「引退したはず!」の橋下の威を借りて、カジノ法案における自公の亀裂をも利用して安倍に接近しようとしています(一人では何もできない)。適当に自民批判をしてい

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう!

ても、結局は政権（安倍）側につきただけの事ではありませんか。

こんな人物が私たちの生活している大阪で知事という要職についているのです。本当に情けない

コヨー急送分会

今年も職場を信じるな！カネを稼ぐため人生という時間を使っているのに、働いてもいないような経営陣のために寒さ・

やら恥ずかしいやら・

政治理念などかけらもなく、ただただ橋下の「操り人形」でしかない松井の、そして「維新」の無責任政治を私たちがそが止めていきましょう。

雨の中・暑さに汗水たらしている不公平感を、三人の分会ですが変えていきたいので、今年もご指導ヨロシクお願いします！

NRB分会

あけましておめでとうございます。

皆様には健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

私達が働く理美容師養成施設の業界は変わらぬ

少子化で厳しい経営環境です。皆様のお知恵とご協力を頂き活動し今年も

引き続き三人一致協力して危機感と鳥の羽ばたきと粘りを持って取り組んで参ります。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしく

アートアド分会

新年あけましておめでとうございます。

月日が経つのは早いもので、この世に生まれてから半世紀、港合同の組合員になってから四半世紀。年は重ねても見た目同様、ふわふわしていてあまり頼りになりません

お願いします。

今年が皆様にとって明るい歳になりますことと祈りつつ新年のご挨拶と致します。

が、二〇一七年もちつき実行委員の活動等がんばっていききたいと思っています。

本年もアート・アド分会コンビをどうぞよろしくお願いいたします。

【K】

昌一金属支部

共に闘う仲間の皆さん、新年明けましておめでとうございます。

昨年は、原発再稼働と電力の全面自由化情勢の中で、春闘では経営側か

らパート導入の提案が出されてきました。今日の外注化・総非正規職化という資本の生き残り政策が労使の力関係をめぐる攻防として闘い抜いた一年でした。

さて、昨年は韓国の労働者・民衆の闘いが燃え広がり、「パククネ退陣！財閥解体！」の叫びは、

成和製造分会

結成から一年、働いている工場は、金属を溶かし铸造しています。

当初は、鑄型に使う砂が劣化して、工場の入り口から建屋の奥が見えないほど、粉じんが立ち込めていました。

文字通りパククネ政権を「死に体」へ追い込みました。十一月国際共同行動として共にスクラムを組んだ民主労総の同志たちの闘いは、労働組合が資本や国家権力の如何なる弾圧にも屈せず、団結を守り抜いて闘えば、これだけのことができることを示してくれました。

新型の集塵機を導入し、粉じんが舞う事が抑えられ、今は見通せる状態です。

分会の課題は、会社がみなし残業時間を短く変更したため、一部の職場に長時間残業が多発していることです。管理者には手当を増額

日本でも、安倍政権が戦争・改憲、基地建設や原発再稼働に踏み出し、「働き方改革」と称して労働法制の解体を労働組合つぶしとして進めています。大阪市でも今春、下水道民営化を筆頭に全面民営化と組合つぶしが襲いかかっています。闘う労働組合を甦らせた

して、残業を少なくするようにしていますが、残業時間が減らず、外注に出すことが多くなっています。

分会は、要員が不足し補充することが必要だと思ひ、快適な職場をつくっていきます。

とき、韓国のような闘いで勝利できると思います。

昨年、組合つぶしの下水道民間委託と闘う奈良市従の仲間、支部で取り組んだ大飯・高浜原発ツアアの案内をしてくれた京都府職労舞鶴支部の仲間、ヤクザを使った組合つぶしにストライキで闘う全日建近畿トラック支部エムケイ運輸分会の仲間など、共闘の輪を広げました。

今年も、広がった友好・連帯・団結の輪を大事に港合同各支部・分会の仲間と共に、官民連帯・地域共闘で闘っていきます。今年もよろしくお願ひします。